

# 目指す2020年の先にある。ビジョンは、



①



②



③



④



⑤



⑥



⑦

## パラスポーツ体験イベント筑豊地区

### みんなでパラスポーツを体験しよう

障害者スポーツを体験できるイベントを開催。多彩な競技がみなさんを迎えます。

- とき 8月5日(日)10時～15時
- ところ 市総合体育館
- 対象 障害の有無に関わらず、健康上参加できる人
- 定員 100人程度
- ※実施競技や障害の種別によって、競技単位で定員を設ける場合があります。
- 体験競技(予定) 車いすバスケットボール、ウィルチェアラグビー、ボッチャ、卓球、アーチェリー、バドミントン、射撃(ビームライフル)、卓球パレー、フライングディスク
- ※競技は変更する場合があります。
- 持参品 運動できる服装、体育館シューズ
- 申し込み 事前または当日の申し込みが必要です。参加申込書に必要事項を記入のうえ、FAXまたは郵送で申し込みください。
- ※参加申込書は、田川市民会館、市総合体育館で配布するほか、市ホームページからダウンロードできます。
- 申し込み・問い合わせ 福岡県障がい者スポーツ協会 〒816-0804 春日市原町3-1-7 クローバープラザ6階 ☎ 092-582-5223 FAX 092-582-5228

- ①初めて触るサーベルに興味津々な大浦小学校の子どもたち
- ②スポーツ庁の鈴木大地長官(右)が来訪。選手たちを激励しました
- ③一瞬の隙をついて突くサーベルは自由自在にしなり、目で追えないほど俊敏です
- ④固唾をのんで試合を見つめる二場公人市長(右)と観戦者
- ⑤握りやすく加工されたサーベルのグリップ
- ⑥決勝戦を終え笑顔の2人。フルーレの部門でユー・チュイ・イー選手(左・香港)が優勝、加納慎太郎選手(右)が準優勝に輝きました
- ⑦白熱する試合の様子。シュッ!ギャリッ!とサーベルが擦れる音が会場に響きました

### 若手職員を育成

車いすフェンシングは「ピスト」という台に車いすを固定して行う競技で、選手とコミュニケーションを取りながら微調整が必要です。大会では、事前に講習を受けた市の若手職員25人がスタッフとして調整役を務めました。こうした職員の育成も2020年に向けた布石のひとつです。

### 車いすフェンシングが田川へ

4月10日、日本車いすフェンシング協会の中村元裕理事長と馮英駿強化部ヘッドコーチが本市を訪れ、市総合体育館などを視察。市の関係者と協議した結果、6月9日・10日に本市で「全日本車いすフェンシング選手権大会・国際親善大会」を開催することが決まりました。九州での開催は初。2020年に向けて市が取り組んでいる事前キャンプの誘致活動に、大きな弾みがつきました。

### 子どもたちの出口

同大会には、日本のほか韓国や香港を含む21人の選手が出場しており、6月7日から本市で合同練習を開始。練習の合間に大浦小学校の5・6年生約50人と交流しました。

### 2020年の先へ

本市は、2020年を契機に、スポーツ振興のノウハウを学び、障害の有無に関わらず皆さんの人がスポーツに挑戦できるまちななることを目指しています。2年先ではなく、10年・20年先を見据え、人材育成や心のバリアフリー、施設の整備など、取り組むべき課題に向き合い、ひとつひとつ布石を打っていきます。市民のみなさんとともに、本市は挑戦を続けます。

### 0・1秒の激闘

試合当日。市総合体育館の小体育室には、選手やスタッフ、来場者の熱気が充満し、これから始まる闘いに誰もが興奮を覚えているようでした。マスクとメタルジャケットに身を包み、試合用の車いすに乗った選手たちが登場。5つのプースに分かれ、互いに剣先を向け合って試合が始まりました。

選手たちは、上半身と腕をしなやかに動かし、素早く突いて攻撃し、体を反らせてかわします。約1mの鉄のサーベルがぐにやりと曲がって風を切り、胸部・腹部などの有効面に接触。ポイントを取ると、選手は声を上げてガッツポーズを決めました。0・1秒が勝敗を分ける激闘を目の当たりにした来場者からは「速くて見えな